

全校生のみなさん、おはようございます。

4日間の秋休みを終えて、今日から後期が始まります。せっかくの新しい学期の始まりですから、気持ちをリセットしてスタートしましょう。そのうえで、みなさんに考えてほしいことがあります。

先日、カトリック秋田教会で国際ミサが行われ、秋田で暮らす9か国の人々が200人近く集まりました。聖書朗読や祈り、歌や踊りに、それぞれの文化が色濃く表れていました。言葉や表現は違っても、同じ場を共有し、心をひとつにして祈っている。その光景を見て、「秋田もすでに国際社会の一部なのだ」と強く感じました。

ミサの中で、成井大介司教様が多文化共生について語られました。その一部を紹介します。「多文化共生という言葉がありますが、多くの場合、違う文化の人が同じ地域で生きているだけです。そこに交わりはほとんどありません。交わりというのは、相手のことを知り、それによって自分に変化し、ともに成長していくということです。皆さん、ぜひ、『相手が大切にしていることを知って、それを一緒に大切にしていこう』という交わりを実践してください。私たちは皆外国人です。ベトナムの人は日本人にとって外国人ですが、ベトナムの人にとって日本人は外国人です。お互いに外国人です。それぞれ、大切にしていることがあります。お互いが、お互いに、大切にしていることを分かち合い、ともに大切にしていってください。」

この言葉は、私たちの学校生活にもそのまま当てはまります。大切なのは「相手を知ること」「自分も変わること」「ともに成長すること」。これこそが、本校がめざすグローバルコンピテンスです。

実は今の日本社会全体が、**多文化共生**を本気で考えなければならない状況にあります。人口が減っている日本で、外国から来て働く人、学ぶ人、暮らす人はこれから、もっと増えていきます。みなさんが社会に出る頃には、「外国にルーツを持つ友人や同僚がいること」が当たり前の社会になるでしょう。その社会で生きるには、**違う文化や考えを尊重し、協力して課題を解決する力**が必要です。英語を学ぶことも大切ですが、それ以上に求められるのは、**違う価値観に耳を傾ける力、自分の考えを伝える力、そして共に未来を築こうとする姿勢**です。

この後期、みなさんに、ぜひ挑戦して欲しいことがあります。それは、「**違いに出会ったとき、一歩近づいてみる**」ということです。クラスで意見が分かれたとき、部活動で考え方がぶつかったとき、あるいは外国の方とかかわるとき。まず「なぜそう思うのか」「何を大切にしているのか」を聞いてみてください。

そうした小さな挑戦の積み重ねが、やがて大きな力となり、世界や地域社会で活躍する原動力になります。

秋田にいても、私たちはすでに国際社会のただ中にいます。どうか、この後期、みなさん一人ひとりがそのことを意識しながら、グローバルコンピテンスを磨き、互いを尊重し合う学校生活を築いていけるよう願っています。

成井司教様のメッセージ全文は本校 HP の「校長室の窓から」に掲載していますので、ぜひ読んでみてください。終わります。